

三重津海軍所跡 25 区（修覆場地区）調査現地説明会資料

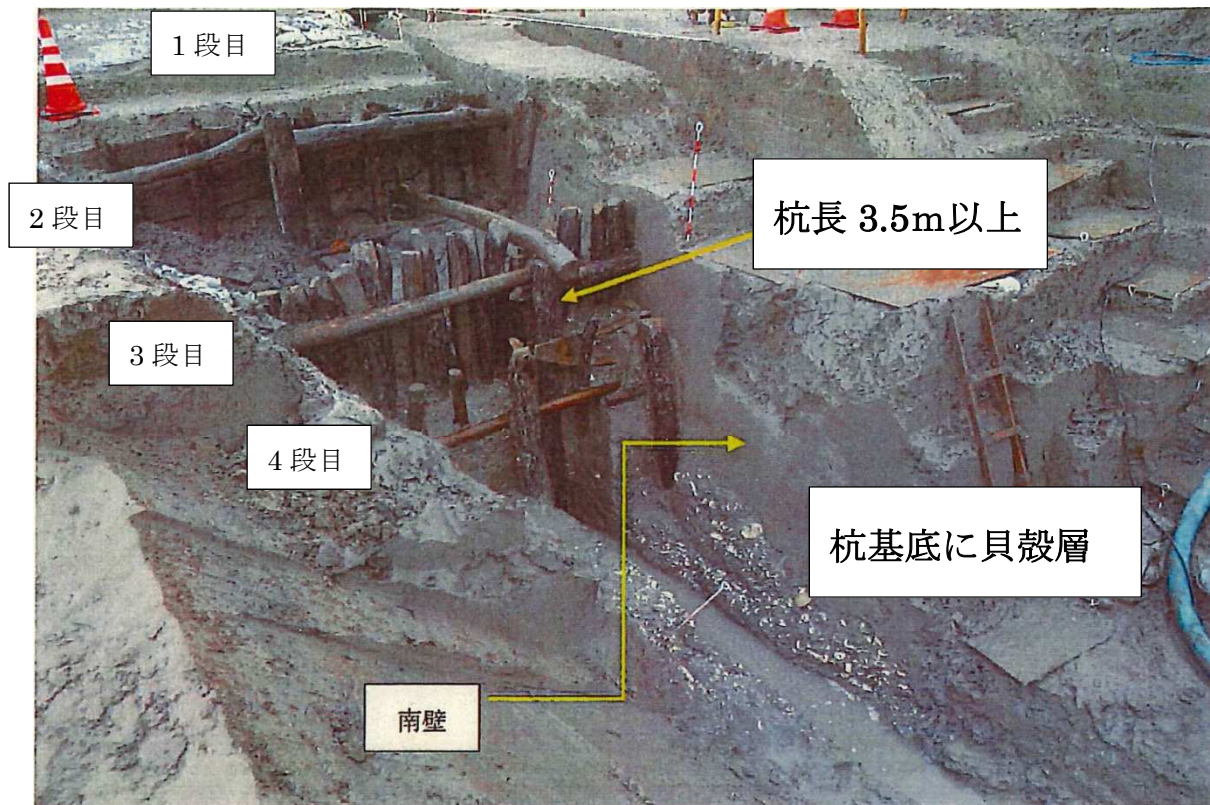
佐賀市では平成 21 年度より三重津海軍所跡の発掘調査を実施しています。ドライドックの発掘調査は、平成 21 年度（11 区・12 区）、平成 22 年度（13・14 区）、平成 23 年度（18 区）、平成 24 年度（20 区）、平成 28 年度（22 区）につづき今回（25 区）で 8 回目になります。今回の発掘調査ではドック上流側の渠壁に使われた木組骨格下部の構造等の確認を目的に実施しています。

現在、発掘調査では木組骨格の木材の長さを知るための調査を実施しており、杭の一部が 3.5m 以上あることが判明しました。同時に科学的測定調査（パルス調査）を行っています。科学的測定方法は木材で試されたことがない方法なので発掘調査で実際確認した杭長と比較して今後精度を高めていこうと考えています。これらの方法で得た成果は壁面支持力を知るため欠かせないものです。また、壁面支持力を解明できれば、国内でも三重津でしか確認できていない木組骨格をもった渠壁がこのような構造で造られた目的を考える貴重な資料となると考えています。

今回の調査では、渠壁木組骨格の内部で土嚢が検出されました。これまで、土嚢は検出されていますが、今回のように全体形が見つかったことはありませんでした。これは、土嚢が藁でつくられており、土中で腐食して痕跡しか発見できなかったため、今回は土中から豊富に供給されている新鮮な水に守られていたため良好な状態で発見されました。土嚢は長さ 60-70 cm×幅 40 cm 程で、内部にはカキ殻や石炭屑混じりの粘土が詰められていました。土嚢は渠壁 3 段目の杭列内側に列状に縦に複数段積み重ねられていました。渠壁内部には粘土と砂が交互に積み重ねられていますが、この砂が杭列隙間から流れ出さないよう設置されていたものと考えています。



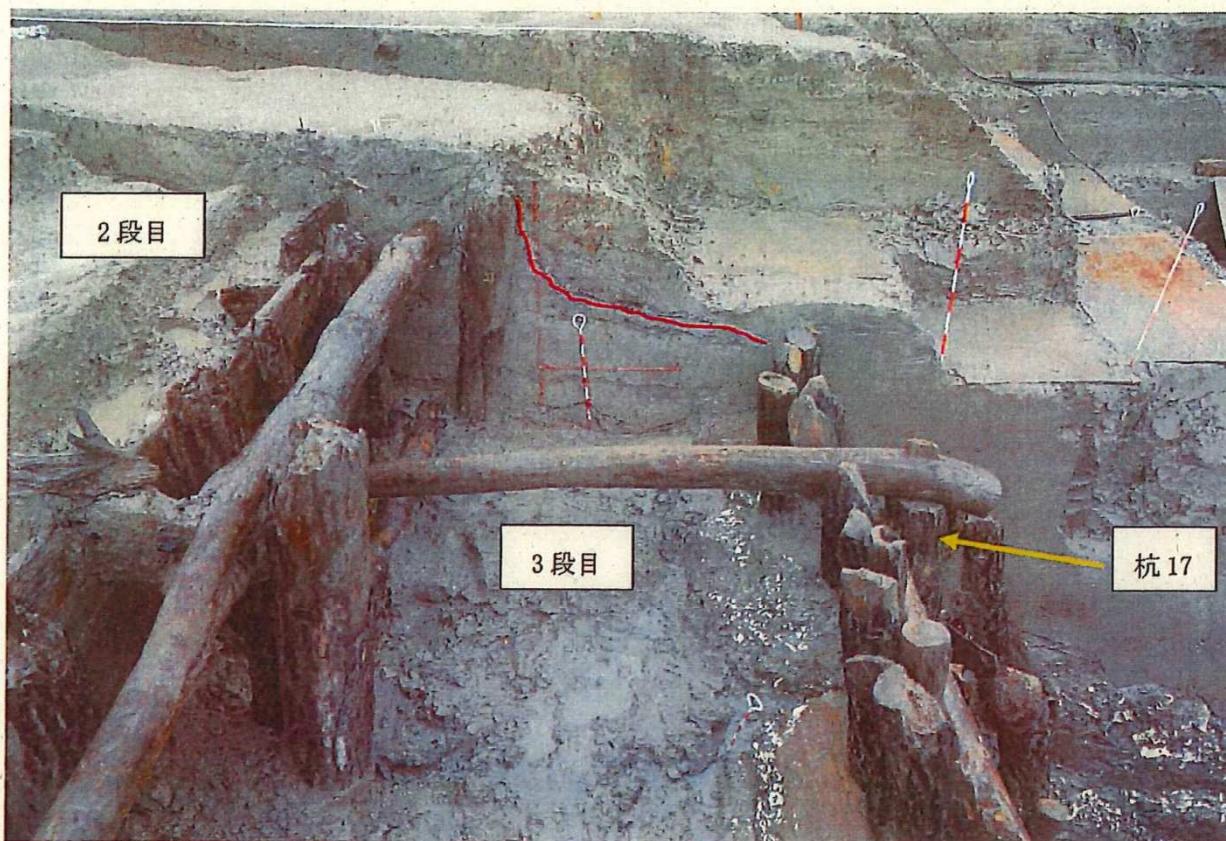
ドライドックと調査地点（俯瞰写真）[北から]



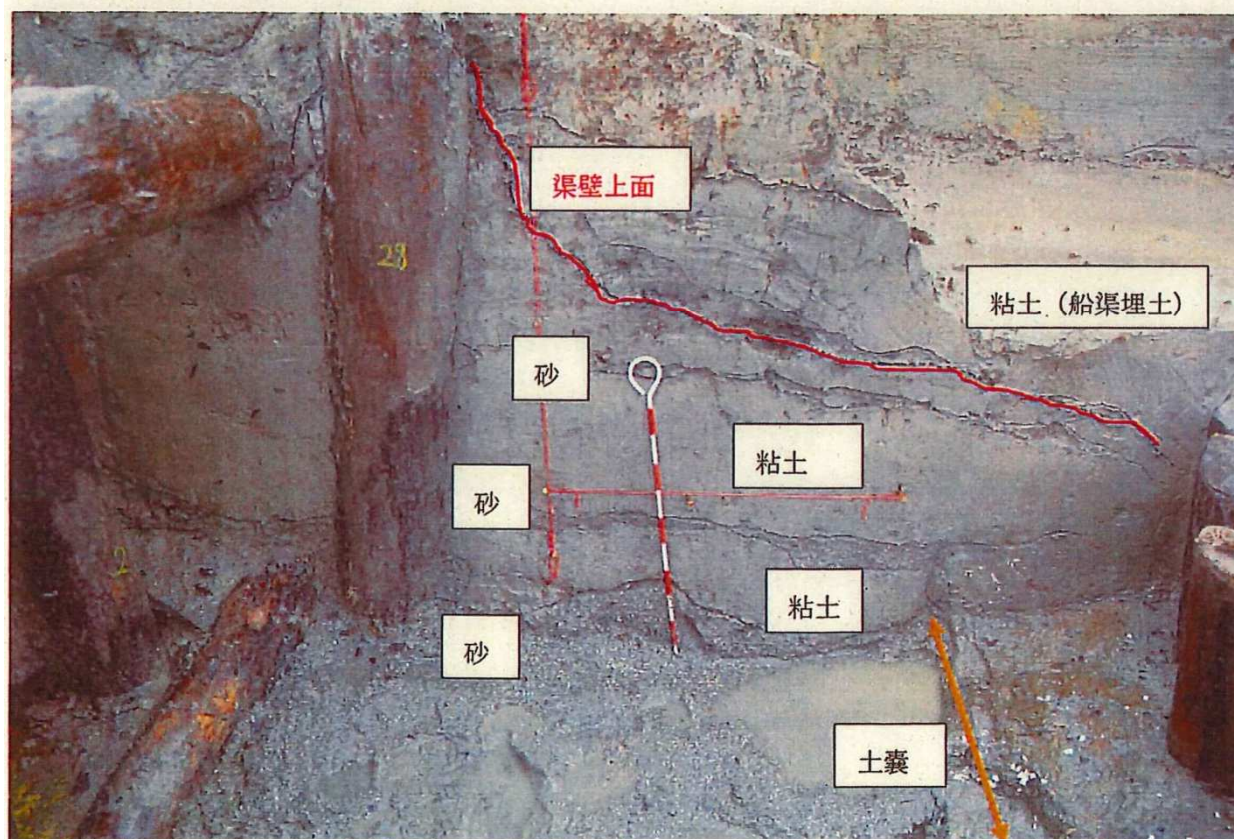
渠壁（上流側：東側）南壁（三重津海軍所跡 25 区）



4 目下部貝殻層（底面は現在掘削中）杭 17 を内包する。厚 0.9m 以上
（部分的に粘土層（間層）有 人工遺物（土器）含

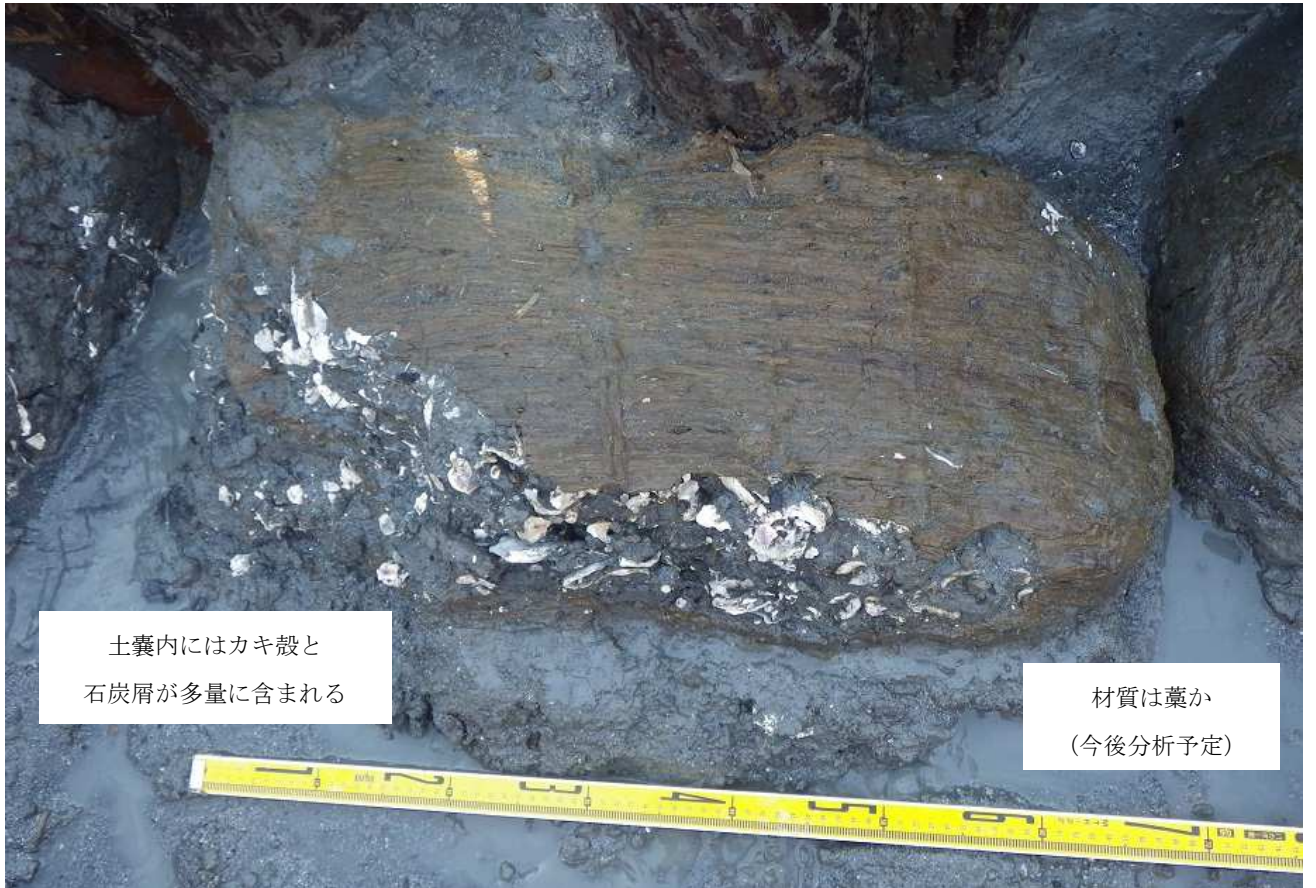


渠壁（上流側：東側）南壁 2-3 段目部



渠壁（上流側：東側）南壁 3 段目部

土嚢は木組内に積まれた砂の流出を防ぐことが目的か



土囊内にはカキ殻と
石炭屑が多量に含まれる

材質は藁か
(今後分析予定)

渠壁（3段目）木組骨格内で検出した土囊



渠壁（2段目）の堰板（和船解体材を転用）
隣接する藩船屋で運用していた和船解体材か（材質：杉材）

